



三珠中学校校長室だより
 令和7年9月 5日発行
 No.20
 文責 校長 渡邊 康裕

三珠中HPIはこちら！



取組期間中に大切にしてほしいこと

9月3日(水)より、希珠祭に向けての特別日課が始まりました。通常なら6時間ある授業のこま数を減らし、さらに授業時間を5分短縮して生み出した時間で希珠祭の取組を行っています。▼さて「学校」の「学」の字には『学ぶこと』、「校」の字には『知識を教え学ぶ場所』という意味があります。学校とは『授業が大切にされる場所』です。そんな学びを大切にしている学校も上記の様に授業時間やこま数を減らしてまで生み出した時間を希珠祭の取組に充てています。その理由は、希珠祭に向けての活動にそれだけ大きな価値があるからです。▼希珠祭の取組期間そして希珠祭当日にかけて私が期待するその価値とは、『色々な立場の人の気持ちを慮り(「慮る」とは「相手の事情や周囲の状況などについて深く思いを巡らせて気遣うこと」)ながら最良の行動が取れるようになること』です。▼9月2日のがんばろう集会の校長の話でも伝えましたが、今年の希珠祭で、いくら多くの人が「良かった」、「楽しかった」と口にしたとしても、その裏にたとえ1人でも悲しい思い、辛い思いをしている人がいたとしたら……残念ですが、「今年の希珠祭は成功だった」と胸を張って言うことは私にはできません。今回の希珠祭のテーマは『∞ -絆-』。希珠祭を通して、生徒・教職員全員の絆を深めることが最大のテーマであり、目標であると思っています。▼とかく人は自分の価値観で物事を見て判断し行動に移しがちです。運動が得意な人で大縄跳びをどの学年よりも多くの回数跳びたいと考えている人なら、実は一生懸命頑張っているのに縄によくひっかかって止めてしまう人に『何やってるんだよ!』と思うかもしれません。度胸が据わっていて人前での発表などが得意な人が全校合唱をより良いものにしたいとか学年劇を最高のものにしたいと考えていたなら、人前が極度に苦手な人が、合唱時、あまり口を開けていなかったり、演劇時、舞台上で自信なさげに演技をしていれば、『もっと一生懸命やってよ!』などと思うかもしれません。しかし、もしかしたらそれがその人



の限界で、それ以上を求めるのは酷ということもあるのです。そういう私のこのような考え方だって、別の人から見れば『ちょっと違うんじゃない?』と思われるのかもしれませんが。それはそれで仕方のないことであって、大切なのは『自分と違う考え方をする人をリスペクトできるかどうか』であると私は思います。▼先程の例で、大縄跳びでよくひっかかる人に『ドンマイ!よく頑張ってるよ!大丈夫!』などと声かけすれば、その人はどう感じるでしょう?合唱で口が開かない人には『間違えても分からないくらいに私が大きな声で歌うから安心して』と声をかけられればどうでしょう

か?舞台上で自信なさげにしている人には『思い切ってやってみようよ!



応援してるからさ!』などと声をかければ勇気を出そうと思ってくれるかもしれません。真面目に一生懸命頑張りたいのにうまくいかない人にとって、このような声かけは大きなエネルギーになるはずですし、このような温かいエールをもらったなら、勇気を出して自分を変える努力をしてみたいと願っています。▼一方で、同じうまくできていない人の中には、真面目さや一生懸命さが足りずにうまくできていない人がいるのも世の中の常です。「みんなで全力で頑張ろう、最高のものをつくりたい!」と思っている人の思いに気付けなかったり、気付こうともしないのは何ともいただけない気持ちになります。そういう人が変わることができるチャンスが希珠祭なのです。しかしチャンスをもにするためには、まずはそのような自分の内面に自分が気づき、「自分を変えたい」と思う気持ちが必要です。また、仲間や先生方からの注意や苦言は自分を客観的に知るきっかけになります。注意されると条件反射で反抗的な気持ちになる人も、まずは「なぜ、そう言われてしまったのか」を考えてみましょう。自分のためになる言葉は時に耳に痛いものです。しかしその声は自分を変える大切なスイッチとなること間違いありません。▼これから本番当日までの2週間、楽しい時間もあれば、そうでないときもきっとあるはずです。そんなときこそ、周りの人にリスペクトの心を持ち、それぞれの思いを受けとめながら、最良の道を探してみましょう。みんなで逆境を乗り越えた先には大きな感動が待っているはずです。頑張れ!三珠中生!